

2017年（平成29年） 3月24日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

3/9～15のNYMEX・WTIIは、米国の原油在庫急増により供給過剰感が強まり、50ドルを割り込んで、47.72～49.28ドルの範囲で軟調に推移した。

3月16日は、シェール増産の動きを警戒した売り気配が強まり、反落した。4月限の終値は前日比0.11ドル安の48.75ドルだった。

週末17日は、ペーカーヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数が631基と前週比二桁(14基)の増加となったことから、供給過剰感が強まる中、小幅な動きに終始した。4月限の終値は前日比0.03ドル高の48.78ドルだった。

週明け20日は、OPEC(石油輸出国機構)の減産が、シェールオイルの増産によって相殺されるのではないかとの不安が強まり、反落した。4月限の終値は前日比0.56ドル安の48.22ドルだった。

21日は、米国の供給過剰懸念、OPEC減産に対して7月以降も非OPEC諸国が協調を続けるかとの不安などから続落した。4月限の終値は前日比0.88ドル安の47.34ドルと、昨年11月末以来3か月半振りの安値を記録した。

22日は、官民が発表した米国原油在庫が増加したことから、3日連続で続落した。この日から取引の中心限月となった5月限の終値は、0.20ドル安の48.04ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(5月渡し)は、前週49.80～52.10ドルと、50ドルを挟みながら40ドル台も窺う水準で推移した。3月16日は50.50ドル、17日は50.10ドル、21日は50.20ドル、22日は49.20ドルで推移した。

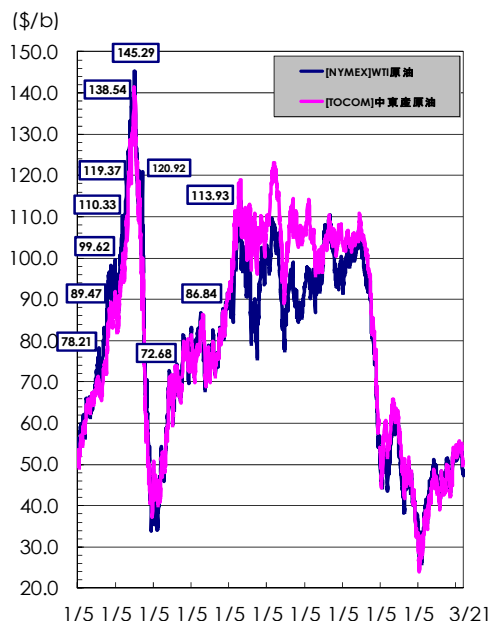
為替は、前週114.60～115.22円と狭い範囲ながら円安気味で推移した。3月16日は113.28円、17日は113.48円、21日は112.40円、22日は111.72円で推移した。

財務省が22日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、2月下旬の原油輸入平均CIF価格は、39,402円/klとなり、前旬を303円下回った。ドル建てでは55.42ドルで前旬比0.35ドル安。為替レートは1ドル/113.03円。また同日発表した貿易統計速報(月間ベース)によると、2月の原油輸入平均CIF価格は、39,416円/klとなり、前月を373円上回った。ドル建てでは55.25ドルで前月比1.95ドル高。為替レートは1ドル/113.42円。

主要元売会社の3月第4週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、全社、全油種据え置きだった。原油価格は値下がり、為替レートは円高で、原油調達コストは値下がりした。

そのような中で、3月21日時点の小売価格は、ガソリンが0.3円値上りの133.8円、軽油が0.2円値上りの112.2円、灯油は0.1円値下りの78.1円だった。ガソリンは4週連続の値上がり、軽油も4週連続の値上がり、灯油は4週振りの値下がりだった。この週(3月第3週)の原油コストはわずかに値上がりし、元売の卸価格は横ばいから1.0円の値下げだった。

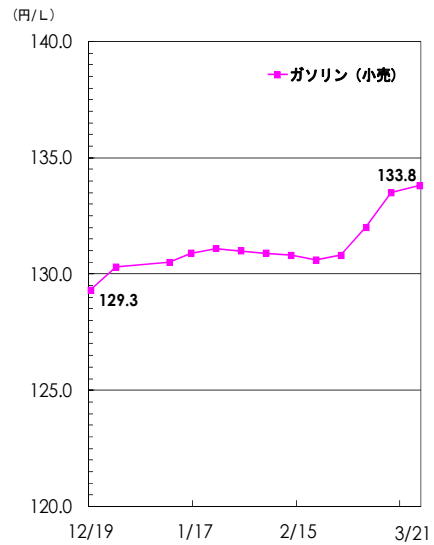
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	3/12 ~ 3/18	3,683 ▼ -24	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	87.3 ▼ -0.6	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	3/18	12,869 ▼ -618	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	3/21	50.72 ▲ 0.93	▲ 11.7
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	3/20	48.22 ▼ -0.18	▲ 8.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	2月下旬	55.42 ▼ -0.35	▲ 24.99
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	39,402 ▼ -303	▲ 16,923
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	113.03 ▲ 0.16	▲ 4.40
	外国為替TTSレート (¥/\$)	3/21	113.40 ▲ 2.42	▼ -0.47



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/12 ~ 3/18	1,022 ▲ 9	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	941 ▲ 75	▼ -	
	輸出	"	39 ▼ -131	▼ -	
	在庫	3/18	1,735 ▲ 42	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/14 ~ 3/17	53.5 ▼ -0.7	▲ 18.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/14 ~ 3/17	51.0 ▼ -1.3	▲ 14.0
		(TOCOM/中部)	3/17	51.1 ▼ -0.1	▲ 14.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/21	133.8 ▲ 0.3	▲ 20.9	

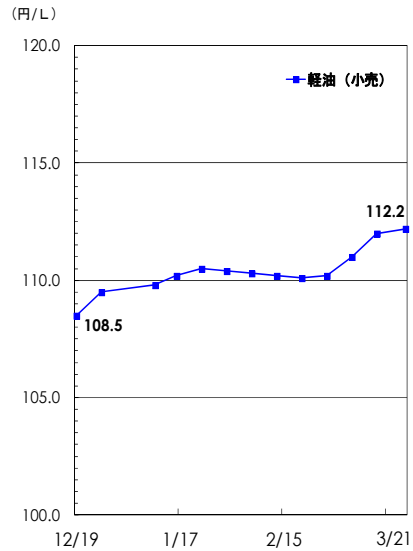
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

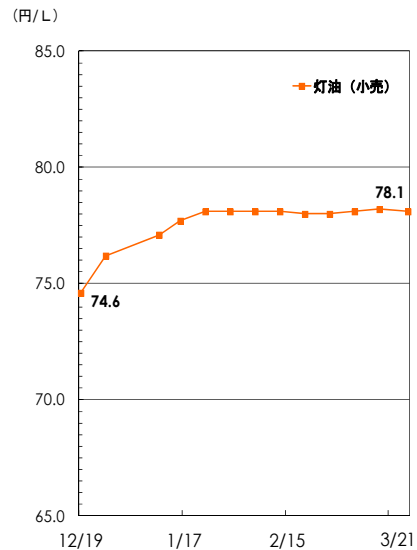
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/12 ~ 3/18	761 ▼ -13	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	661 ▲ 49	▲ -	
	輸出	"	64 ▼ -28	▼ -	
	在庫	3/18	1,597 ▲ 36	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/14 ~ 3/17	51.3 ▼ -0.5	▲ 17.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/14 ~ 3/17	46.0 → 0.0	▲ 9.6
		(TOCOM/中部)	3/17	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/21	112.2 ▲ 0.2	▲ 14.9	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/12 ~ 3/18	324 ▼ -35	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	346 ▼ -119	▼ -	
	輸出	"	0 → 0	→ -	
	在庫	3/18	1,213 ▼ -22	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/14 ~ 3/17	49.3 ▼ -0.9	▲ 15.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/14 ~ 3/17	46.4 ▼ -0.9	▲ 12.1
		(TOCOM/中部)	3/17	47.0 ▲ 0.9	▲ 12.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/21	78.1 ▼ -0.1	▲ 17.1	



■ 関連情報

1 海外/原油

3月22日のNYMEX市場WTI原油は、米国内原油在庫が、前日夕刻の米国石油協会(API)週報で450万バレル増、この日午前の米国エネルギー情報局(EIA)の週報で500万バレル増と、市場予想(250万バレル増)を大きく上回って再び増加したことから、3日続落した。ただ、ガソリン在庫は280万バレル減、中間留分在庫は190万バレル減と、製品在庫は予想を上回る取り崩しとなったことから、下げ幅は圧縮された。この日から取引の中心限月となった5月限の終値は前日比0.20ドル安の48.04ドル、6月限の終値は前日比0.24ドル高の48.58ドルだった。

EIAによると、3月20日時点のガソリンの小売価格は前週比0.2セント値下がり1ガロン2.321ドル(70.1円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比2.5セント値下がり2.539ドル(76.7円/ℓ)。ガソリン、ディーゼル共に2週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、3月12日～18日に休止したトッパ―能力は26.7万バレル/日で、前週に対して横這いであった(全処理能力は379.0万バレル/日)。

原油処理量は368.3万klと、前週に比べ2.4万kl減少。前年に対しては19.9万klの減少。トッパ―稼働率は87.3%と前週に対して0.6ポイントの減少、前年に対しては1.8ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/0.9%増、ジェット/2.8%増、灯油/9.7%減、軽油/1.7%減、A重油/3.7%減、C重油/6.3%増。今週のC重油の輸入は3.3万kl(前週比5.2万kl減)。軽油の輸出は6.4万kl(前週比2.8万kl減)。

出荷(販売量)は、前週比ではガソリン、ジェット、軽油が増加し、その他の油種で減少した。前年比では軽油のみが増加し、その他の油種で減少した。原油価格は値下がりとなったが、小売価格は4週連続で値上がりとなる中、ガソリンの出荷は94.1万kl(対前週8.7%増)と2週振りに前週比で増加、2週振りに前年比で減少となり、7週連続で100万klを下回った。

ジェット12.3万 kl(対前週100.0%増)、灯油34.6万 kl(対

前週25.6%減)、軽油66.1 万kl(対前週8.1%増)、A重油22.9万 kl(対前週19.8%減)、C重油25.0万 kl(対前週11.4%減)。

(単位:千KL)

	今週 (3/12 ~ 3/18)	前週 (3/5 ~ 3/11)	前週比	
ガソリン	941	866	▲ 75	(9%)
ジェット燃料	123	62	▲ 61	(98%)
灯油	346	465	▼ -119	(-26%)
軽油	661	612	▲ 49	(8%)
A重油	229	286	▼ -57	(-20%)
C重油	250	283	▼ -33	(-12%)
合計	2,550	2,574	▼ -24	(-1%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

3月18日時点の在庫は、灯油のみが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、C重油のみが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは173.5万kl、前週差4.2万kl増。前年に対しては2.2万kl多い。

灯油は121.3万kl、前週差2.2万kl減。前年に対しては4.6万kl多い。

軽油は159.7万kl、前週差3.6万kl増。前年に対しては16.3万kl多い。

A重油は77.9万kl、前週差2.1万kl増。前年に対しては6.7万kl多い。

C重油は198.3万kl、前週差1.4万kl増。前年に対しては9.6万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (3/18)	前週 (3/11)	前週比	
ガソリン	1,735	1,693	▲ 42	(2%)
ジェット燃料	1,009	977	▲ 32	(3%)
灯油	1,213	1,235	▼ -22	(-2%)
軽油	1,597	1,561	▲ 36	(2%)
A重油	779	758	▲ 21	(3%)
C重油	1,983	1,969	▲ 14	(1%)
合計	8,316	8,193	▲ 123	(1.5%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

3月14日から3月17日までの原油コストは、原油価格は値下がり、為替レートは円高で、原油コストは値下がりで見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン107円台、軽油50～51円台、灯油49円台で上値を切り下げている。海上スポット価格は、ガソリン106～108円台、軽油50～51円台、灯油48～49円台、先物価格はガソリン104円台、軽油46円台、灯油46円台で、こちらも横ばいからやや値下がりである。元売の卸価格は全社全油種横ばいだった。

東燃ゼネラルは3月23日、25日以降の外販スポット価格を、全油種据え置く旨通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストは値下がり、製品スポット市況も原油価格の軟調から、軟調に推移した。週間のガソリン販売量は、7週続けて100万klを下まわった。

3月第4週(3月23日～3月29日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(3月14日～3月17日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.7円、灯油は0.9円、軽油は0.5円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.4円、灯油は1.6円、軽油は1.5円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが1.3円、灯油が0.9円の値下がり、軽油が横ばいだった。原油価格は値下がり、為替は円高で、原油コストは値下がりとなった。

3月第4週の大手元売の卸価格は、横ばいだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (3/14～3/17)	前週 (3/7～3/13)	前週比
スポット価格	レギュラー	53.5	54.2	▼ -0.7
	灯油	49.3	50.2	▼ -0.9
	軽油	51.3	51.8	▼ -0.5
(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (3/14～3/17)	前週 (3/7～3/13)	前週比
先物価格	レギュラー	51.0	52.3	▼ -1.3
	灯油	46.4	47.3	▼ -0.9
	軽油	46.0	46.0	➡ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (3/14～3/17実績値)		(単位: 円/%)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.7	▼ -1.3	▼ -1.0
灯油	▼ -0.9	▼ -0.9	▼ -0.9
軽油	▼ -0.5	➡ 0.0	▼ -0.2
A重油	▼ -0.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

3月21日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円値上がりの133.8円、軽油が前週比0.2円値上がりの112.2円、灯油は前週比0.1円値下がりの78.1円だった。ガソリン、軽油は4週連続の値上がり、灯油は4週振りの値下がりだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは35道府県、横ばいは2府県、値下がり10都県であった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県(128.5円(前週比0.2円安)、次が神奈川県(同0.2円高)の130.6円だった。最高値は鹿児島県の141.4円(同0.4円高)だった。都道府県別で、最も値上がりしたのは前週比3.6円高の高知県(136.4円)、

最も値下がりした県は同1.0円安の岡山県(131.5円)、横ばいが島根県(136.4円)と東京都(134.8円)だった。

原油コストはわずかに値上がりし、4週連続でガソリン小売価格は値上がりした。今週の元売会社の卸価格は横ばいだった。原油価格は値下がりし、為替レートは円高、原油コストは値下がりしたが、元売りは卸値を据え置いた。次週(3月27日)のガソリンの小売価格は原油コストの値上がりを過去の未転嫁が相殺する形で横ばい、一部元売りが卸値を値下げした灯油の小売価格は小幅な値下がりが見込まれる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
		今週 (3/21)	前週 (3/13)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	133.8	133.5	▲ 0.3	08/8/4 185.1
	灯油	78.1	78.2	▼ -0.1	08/8/11 132.1
	軽油	112.2	112.0	▲ 0.2	08/8/4 167.4

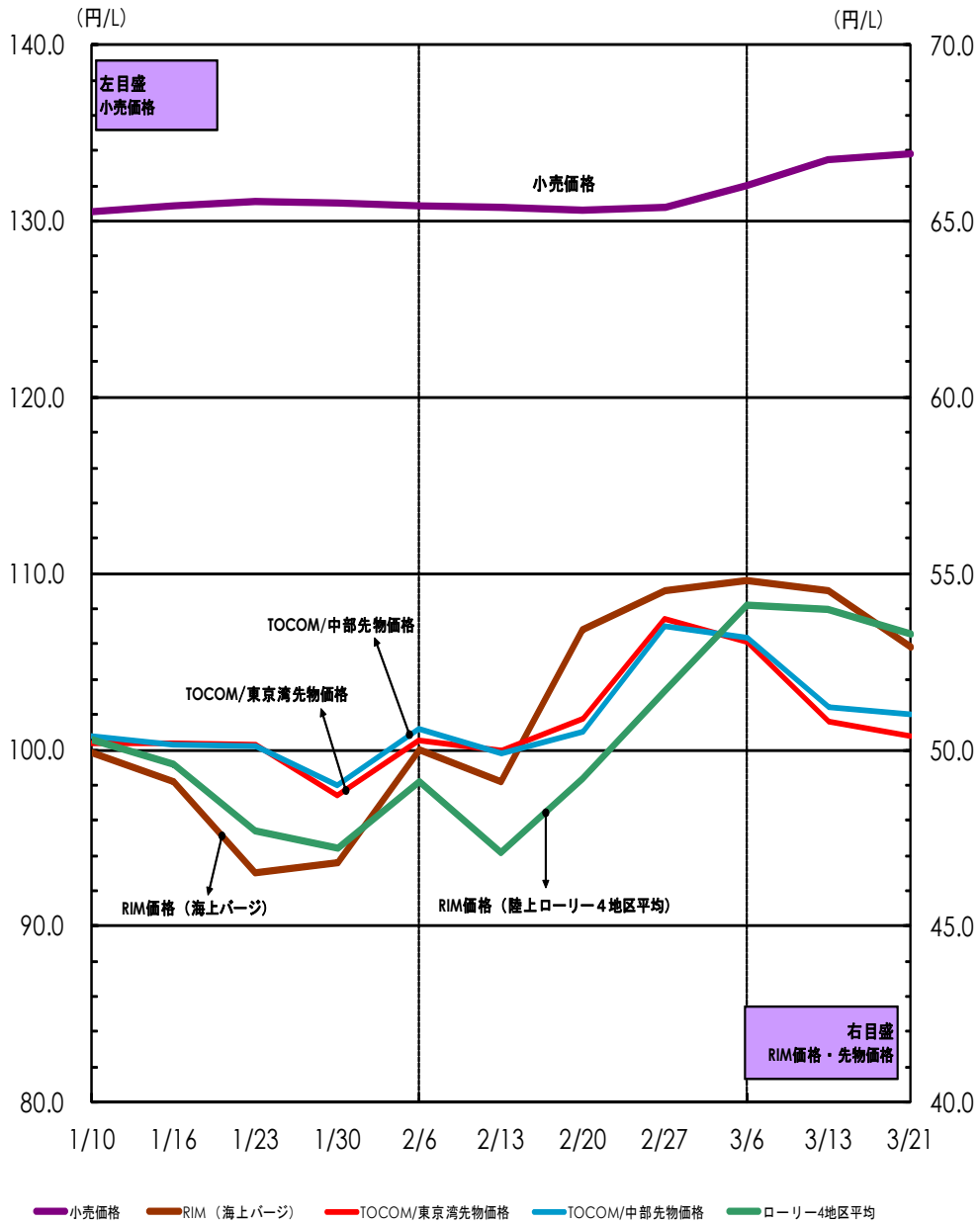
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/1/10 ~ 2017/3/21)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2016第50号)の公表は、3/31(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年9月末現在)は、12月21日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。